

目次

ユニバーサルデザインとは

- ユニバーサルデザインの考え方 1
- バリアフリーとユニバーサルデザイン
- ユニバーサルデザインの7つの原則 2

岐阜市UD推進指針について

- 指針策定の目的 4
- 目指すべきすがた

岐阜市のユニバーサルデザイン推進方策

- 心のユニバーサルデザイン 5
- 身体の状態ごとの特性と配慮 6
- 施策体系 9

それぞれに求められる役割 12



表紙・裏表紙のデザイン

同じ色を見ても、人によって異なる色に見える事があります。

表紙のデザインは、色覚特性シミュレーションソフトなどを使って作成した簡易色見本になっています。左から「色覚に障がいのない人の見え方」「色覚に障がいのある人の見え方※」「色みをなくした色」の順に並んでいます。（※見え方も障がいによって異なり、何種類もあります）

裏表紙の分割された円は配色見本になっており、色覚に障がいのある人にとっては色の違いを識別できない配色があることを表しています。

ユニバーサルデザインの考え方

ユニバーサルデザインは、アメリカの建築家であり、ノースカロライナ州立大学ユニバーサルデザインセンター所長であった故ロン・メイス氏（1941年～98年）により提唱され、「デザインの変更や特殊なデザインを必要とせず、できる限りすべての人に利用できるよう製品や環境をデザインすること」と定義されています。

年齢、性別、国籍、文化、身体的能力や状態といった人の様々な特性や違いを超え、あらゆる人にやさしいモノづくり、生活環境・社会づくりを行っていかうとする考え方です。また、ユニバーサルデザインを簡単にして「UD」（ユーディー）と表記することもあります。

みんなのため・自分のための取組

人は、体格、性別、身体的能力、言語など、あらゆる面で一人ひとりが異なります。この「人は多様である」と知る事が、ユニバーサルデザインの取組を行う上での出発点です。

また、普段、特に不自由を感じずに過ごしていても、ある日突然、ケガや病気により、目が見えなくなる、耳が聞こえなくなる、身体が麻痺するなどの状態になることは、誰にでも起こり得ることです。そして、誰もがいずれは高齢となり、身体の機能が衰えていきます。

このように、特定の人のためのものだけではなく、自分のためでもあるということ意識して、ユニバーサルデザインの取組を行うことが大切です。

バリアフリーとユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザインと比較される考え方としてバリアフリーがあります。どちらの考え方も「誰もが快適で自由に行動できる社会」を目標としています。ユニバーサルデザインは、対象となる人を限定することなくさまざまな人に目を向けられている分、バリアフリーよりも一歩進んだ考え方だと言えます。

バリアフリー	ユニバーサルデザイン
<ul style="list-style-type: none"> ◎ バリア（障壁）を取り除く ◎ 障がいによっては利用できない事もあり多くの人にとって便利でないこともある 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ はじめからバリア（障壁）をつくらない ◎ 幅広い利用者にとって便利なもの（多くの人を対象としている）